

11月4日 バリ島より大韓航空でソウル経由で成田空港より入国
 ◎伊勢原市市民文化会館内バリ島の絵鑑賞◎伊勢原市長表敬訪問◎ウエルカムパーティー



11月5日 ◎青木農園さん「トマト」◎飯田農園さん「きゅうり・トマト」◎龍屋物産さん見学



二人の真剣な眼差しが非常に印象的で、なるべく多くの知識や技術を吸収して母国へ持ち帰りたいという熱い思いを感じました。国は違いますが、良い物を作りたいという思いは同じなんだなと思いました。青木

11月6日 ◎加藤花園さん「はな」◎市内夕市で「はな」の実演販売実習



農業を取り巻く環境は、国によって様々。でも命を育み、命を繋いでいくことは同じ。種をまき、本葉が出て、開花し、実がなり、子孫へと繋がれていく。バリとの交流が次世代へ繋がリエンドレスでありますように。感謝を込めて、祈っています。加藤

11月7日 ◎細野農園さん「きのこ」◎山本農園さん「いちご」
 ◎さくらの家農園さん「農薬を使わない野菜づくりと販売など」



バリの学生 農業交流
伊勢原たこ作りの伝統が縁

インドネシア・バリ島と一線を隔した。農学部で学
 交流を続ける伊勢原市のNPO法人「たこ」(通称「たこ」)農家の所得向上につなげら
 (川上理事)が、同「たこ」を運営する。一れるよう頑張りたい」と張
 島の大学生を招いた農業交

「土は特別なものです
 か」この肥料の成分は、
 伊勢原市下糟屋のイチゴ栽培
 招くハウスで、青年2人が、
 モヤカマを手に熱心に質
 問を重ねた。

イ・バグス・マテ、
 ウィラーワンさん(20)と
 アイ・カデ・ダルマワ
 ン(20)はインドネシア国立
 ウダヤナ大学の学生。4日
 に来日し、11日までにキ
 の生産現場を見て回る。9
 日には東京農業大学の厚
 木キャンパスで「インドネ
 シア農業における私の計
 画」をテーマに発表す
 る。

ダルマワさんの妻は、
 米農家。同国の主食は米な
 ので需要は多いものの、ダ
 ルマワさんによると農家
 の収入はわずか、農業だ
 けでは食べていけないのが
 現状。「近い将来、農業だ
 けで生活が成り立つよう
 な流通システムを作り上げ
 たい」と話す。

バリ島と伊勢原には数方
 年にたこ作りの伝統がある
 との縁で、2006年(平成

から文化や環境をめぐって
 交流を続けてきた。09年に
 招いたバリ島の子供たちが
 初めて柿を食べ、喜ぶ顔
 を見て、島へ柿の木をプレ
 ント。柿を通して農業に
 する交流も始まった。

バリ島の農学部の学生を
 招くのは今回で7回目。川
 上理事は「将来、伊勢原
 とバリ島で互いの農作物を
 輸出したり輸入したりする
 関係になればうれしい」と
 話した。(須田紀)